

令和6年度 第1回総合教育会議

令和6年5月29日
15:00～15:30
甲良町公民館会議室

1 出席者

寺本町長、中村総務課長、総務課担当職員
青山教育長、日下委員、藤委員、新家委員

2 次第

- ・教育大綱について
- ・甲良町の町づくりについて
- ・その他

3 議事概要

【中村総務課長】

皆さんおそろいですので、ただいまから令和6年第1回の総合教育会議を始めさせていただきます。

本日でございますが、教育委員会尾崎委員については欠席ということで、よろしくお願いをいたします。

本会議は教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4に基づき甲良町長が設置をするということとなっております。そのことから、総務課長、私、中村が進行を行いますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。

まず、最初に甲良町長より御挨拶申し上げます。お願いします。

【寺本町長】

皆さん、こんにちは。御参集いただきまして、ありがとうございます。

この総合教育会議は、私が招集することとなっておりますが、この会議が設置された平成27年施行の法改正の経緯を振り返りますと、平成23年に発生しました大津市立中学校のいじめ事件も1つのきっかけであります。ここで指摘された課題を克服するために、首長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育課題を、あるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政を推進するため、首長と教育委員会が協議を行う場として、全ての地方公共団体に総合教育会議が設けることとなりました。そのために、この会議は課題があったときならず、町の教育行政が円滑に進んでいくよう、我々町長部局と教育委員会部局とが調整し、共通認識を持ち、連絡強化をしていくための場であります。

ちょうど1年ほど前の5月8日に、新型コロナウイルスが2類から5類になりました。移行するまでの3年間は、子どもたちにも様々な制約が課され、委員の皆様をはじめ、教育現場に大変な御苦勞をおかけしましたところです。その区切りから1年を迎えた中で、新たな子どもたちの学びの環境はどのような状況にあるのか、そして、どのような課題があり、どのように改善したらいいのか、こういったことについて議論していきたいと考えています。

本日の議題は、今年度の教育大綱が中心となっておりますが、忌憚のない活発な意見交換をお願いしまして、冒頭の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

【中村総務課長】

ありがとうございました。

それでは、次第の2、教育大綱についてでございます。

先ほど申し上げました法において、本大綱、この教育大綱を制定または変更するときにはこの会議で協議するものとされておりますので、教育委員の皆様から御意見をいただくとなっております。よろしく願いをいたします。

それでは、令和6年度の教育大綱につきまして、教育委員会のほうから説明を願います。教育長、よろしく願いいたします。

【青山教育長】

それでは、お手元にあります令和6年度教育大綱、確かな学力と生きる力を育む教育の推進ということで提示させていただいております。中を開けていただいて、教育大綱の前段、位置づけ等でありますけども、これについては、第4次甲良町総合計画というのがあります。これが町の10年間の計画ということで、令和12年までなんですけど、この中に、教育に関しての文言も入っております。それを含めて教育大綱を制定するというふうになっておりますので、これを土台にしてつくらせていただいております。

また、滋賀県のほうは、教育大綱をこの6年度から新しく策定しました。手元には配布していませんが令和6年度から、策定は令和5年、2023年12月になっておりますが、施行するのはこの6年度になります。これを5年間でやるんですが、大きく変わっているところは、よく言われている、三方よしという言葉をよく使われますよね、滋賀県は。その文言が、ちょっと教育に関して入っているというところがありますし、また、いろんなコロナ禍の経験を生かした文言とか、あと、デジタル社会ということで、デジタルトランスフォーメーション、DXとかが入っております。これも、私も4月にもらったので、まだ全部把握しておりませんが、それも含めて本町の教育大綱の中に反映させたいとは思っているんですけども、今年度、まだこの中には反映されていませんので、修正等あったら来年度させていただきます。

それから、大綱の実施期間ですが、社会の情勢等、動向等を踏まえて適宜改定するという方向にさせていただきました。昨年度からさせていただいております。

甲良町の目指す教育については、教育目標としてありますが、21世紀を生きる子どもたちが知・徳・体の調和の取れた心豊かでたくましい人間に育つよう、確かな学力で生きる力を育むことを目指しますと、もうこれは甲良町の教育の目標となっております。

①から⑤までありますけども、それぞれについて、施策を考えていかなきゃならないというふうに思っています。

続いて、5つの教育方針というところで、1から5までの方針を立てています。あと、就学前教育から学校教育、社会教育、それから文化振興の基本目標ということで、それぞれ分野別に目標を立てているんですが、まず、就学前のほうからいきますと、やはり安全で安心できる保育環境の整備ということを第一に挙げています。保育内容については、本町の園については、かなり周りの新しく来られた保育士さんから見ると、丁寧ということはよく言われています。なかなか他から移って来てくれる方も、パートさんとかでおられるんですけども、なかなかこの甲良の保育についていけないと。逆に、いい面で、こっちでいうといい面だけでも、今まで彦根とかの違うところで仕事されていた方に聞くと、かなり丁寧にしてはるといようなことも聞きます。かなり保育士さん、頑張っていたいただいていると思います。

その中で、やっぱり子どもたちの生育というか、育ちを支援するために、まず、教材、いろんなところへ研修に行ってもらって、教材を開発するという。それから、私、ずっと言うてるんですが、小中学校も一緒ですけども、体験、いろんな体験をさせてほしいということを言っています。園の中で体験をするのがあれば、また外へ行って、いろんな見学して体験があれば、いろんな感受性というか、手や目や、何かに触れてとかいうような、そういう活動を仕組んでほしいという話をしています。

それから、学習環境を整備するというところで、かなり園舎が古くなっています。特に保育棟はかなり古くて、幼稚園棟と合併していますので、見た目は古いとは思いませんけども、中身を見ると、やっぱりいろんなところで修繕する必要が出てきていますので、これについても、今後考えないかなと思いますし、その都度その都度修繕もしております。

特に、やっぱりアレルギーの子どもたちが何人か増えてきまして、給食を提供しているんですが、園の中で、やっぱりアレルギーを持つ子どもの食のための調理をする場所がちよっと狭い。本当やったら、部屋が、調理室が2つあって、1つはアレルギーのない子どもたちの食事を提供する調理室、もう1つ別に、独立した部屋を、アレルギー症状を持つ子どもたちの調理場という形で用意するのがよいが、なかなかそこはうまく行けてない、かなり苦労してやっています。

それから、赤で書きましたが、ここ、新しく付け加えたんですけども、今後数十年先を見通し、町内就学前教育の在り方について検討を進めるということで、こども園と変えたのは昨年度で、今度は2つの園を一緒にしてはどうかと私は思っています。ただ、これについては、やっぱり町民さんの意見が必要ですので、今、別の会議のほうでアンケートを取らせていただいて、その中でこども園の統合についての意見を聞く場、聞く項目を入れました。6月前半にはその結果が出るかなと思っているんですけども、それを見ながら、また議会のほうとも、また町長とも相談しながら進めていきたいなと思っています。この数十年先というのは、子どもたちは少なくなっているけども、やっぱり園の持つ重要性というのは変わらないと思いますので、しっかりした環境を整えたいな

という思いがあります。

それから、あと、下のほうには家庭・地域・関係機関の連携ということで、いろいろ書いていますけども、今年度、子どもの学力向上の事業、保護者支援の事業ということで、名称では甲良町子育て広場という名称を使っているんですが、町独自の事業を展開しようと思っています。民間事業者さんへの委託にしますので、その委託先はトライグループ、家庭教師のトライとか、よう宣伝していますよね。そのトライが委託先に決まりました。この事業は、4歳、5歳、小1、この3か年に属する子どもたち、また保護者への支援で、トライのほう子どもたちの様子を見たいということですので、6月3日に園と小学校のほうに訪問して、子どもたちの様子を見て、その様子を見てプログラムを組むと言っていますので、そのように進めていきたいと思っています。今対象になっている子たちが、西と東と120名、大体60、60います。1学年20名ずつぐらいるので、今計画しているのは、7月の中旬ぐらいから隔週の土曜日ですね。1・3土曜が東学区、2・4土曜を西学区という形で、隔週の土曜日に、午前中にそういう事業をやりたいなど。中身については、子どもたちは遊びを通した学びということを中心にやるというふうに思っています。保護者のほうにも来ていただいて、ただ単に子どもを預けるだけでなしに、ここはお母さん、お父さん方にもちょっと学習をしてもらおうとか、ちょっと子育ての話を聞いたり、また、お互いに悩みを相談したりとか、悩みと話し合いをしたりとか、また、たまには子どもさんと一緒に活動する親子活動というのを入れていきたいというふうに思っていますので、具体的に話が出てきましたら、御紹介させていただきたいと思えます。

それから、続いて学校教育のほうですけども、特にここ何年か、5年かでタブレットを子どもに持たせました。1人1台端末を持たせていて、タブレットを持たせているんですが、その活用について。甲良町は来年度更新なんですよ、タブレットの。今年度からタブレットを更新する市町もありますので、町としては基金を創設して、教育基金の手法で、そういう補助金を出していくということを決めていますけども、そのタブレットをどのように使うのか。やっぱり便利なので、すごく有効なんですけども、授業の中で先生がどのぐらい使えるのかとか、また、どういうふうな仕組みがいいのかとかいうことが、まだまだ課題があります。本町では、これも町独自ですけども、リモート学習というので、海外の子ども、生徒、中学生ですけども、海外の生徒とリモートで、オンラインつないで交流しようということを今、計画しています。これについては、実は昨年度の10月議会で、昔やっていた、ニュージーランドか。ニュージーランドの海外派遣の授業があったんですけども、コロナでちょっと一時中断して、もう学校内でやろうということで、イングリッシュキャンプをやっていたんですけども、イングリッシュキャンプはずっと続けていきますけども、そのプラスとして、英語の授業の中で、年間そんな何回もできませんけども、数回、今までのオーストラリアの中学生さんとの交流ということで、リモートで、オンラインでしようかなというのを今考えています。これは中学生議会で、意見として中学生が出したので、やっぱりこっちもそういう思いを持っているのであれば、やっぱりやっついこうということで、今考えています。

それから、あと、真ん中に赤で、合わせてということで、各学校の学校図書館の充実をとということで、学校図書館司書を配置というふうに書いていますが、これについては、認めていただいて予算化したんですけども、公募したんですが、3月、2月に。採用できていない状況です。実際、今も公募をしているんですが、なかなか来てもらえないというので、一応、図書館司書の配置は考えているんですが、今のところ、やっていただく方がおられない状況なんです。今後も、誰かいないかということで、いろんな図書館のほうとかも相談しながら、また図書館に入っている滋賀文教短大の先生とかにもお願いして、誰か紹介してほしいと言うてるんですが、なかなか、特に年度の真ん中ですので、なかなかいないという状況ですが図書館のほうの充実もさせていきたいなというふうに思っています。

それから、これ、赤になっていませんけども、その下の地域活動と交流ということを書いています。これについては、地域の方に学校に入ってもらって、いろんな支援をしていただくものです。コミュニティースクールというのがずっとありました。今もあるんですけども、特に学校地域協働事業というのがあります。その中で、地域コーディネーターという方をお願いして、その人を中心に、学校の行事、または独自の行事で子どもたちと一緒に活動してもらおうというようなことを、今、西小学校がかなり進んでいます。西小には学校運営協議会の方とか、またいろんなボランティアの方が入っていただいて、活動をしていただいています。東小学校も昨年度、ちょっとまだ形は西ほどではないんですが、そういうふうな形で地域の方に来ていただいてということで、餅つき大会を12月にやりました。子どもたちと一緒に。これも地域の方が中心にやっていただいたんですけども、それもかなり好評で、毎年やりたいというようなことを、子どもたちもですけども、そのやっている大人、地域の方も言うておられるので、またこれもできるかなと思っています。

ただ、前も調査させてもらったPTAですけども、これについてはもう任意団体ということを出して、入る入らないは個人の自由という形で、この4月、5月の総会で話をしました。今年度については、まだPTAの組織はあります。各支部には支部長さんがおられますけども、今後、このPTAについてはなくす方向で考えています。もうなくすいうよりは、もうこのPTAというのは上部団体があって、全国PTAの協議会があって、近畿があって、滋賀県があってというふうになっています。全部上納金を郡内で納めなあかんので、その上納金を納めるのも、PTAの会員数によって納めていくんですけども、もうそんなのもやめて、もしできれば、各小中学校の、愛育会は別として、園が、こども園はやっぱり親の力が必要ですので、PTAとは呼ばないですけども、愛育会という形で、保護者に協力を得るんですけども、小中学校については親の出番というより、さっき言った地域の方も入っていることが多いので、PTAはなくてもいいかなという思いをしていますので、もし集めるなら、保護者会という形でいこうかなというふうに思っています。

ただ、これについては、この4月、5月にありました区長会、分館長会、それからスマイルネットの青少年育成町民会議の役員さんにも話をしました。そしたら、ちょっと

どうしようかなという、悩んでおられる方があったんですけども、学校のPTAを使うんじゃないに、もうないので、なくなるので、各字でそういう組織をするのであれば、誰か声かけて、保護者さんにボランティアみたいな形で集まってもらうという形になっていきますよということを話しています。今後、いろんな課題が出てくると思いますけども、教育委員会としてもバックアップはしていこうと思っています。

それから、社会教育の基本目標のところですけども、今も言いました、PTAは使えないということでもありますけども、やっぱり分館長さんを中心に、各字の事業等は、やっぱり子どもたちの参加の事業も展開をしてもらいたいということは思っています。町としては、スポーツイベントとか小学生の参加をしてもらう行事を復活させました。ここ3年ほどかな、中止していたんですが、せせらぎ探検会というのがあったんです。小学生の子どもたちを対象にした、年3回の、これも体験学習なんですけど、これを今年度、予算をつけて復活させたということがあります。

それから、最後、文化振興の基本目標ですけども、ここについては優れた文化財と伝統文化に親しむということで、まず、ふるさと文化振興事業ということで、郷土の先人顕彰事業、県の活動支援とあります。今までこれが産業課が所管していたものを教育委員会の社会教育課のほうに移管し、今年度担当するというふうになりまして、町のほうで4団体あるんです。藤堂高虎公の顕彰会、それから甲良豊後守宗廣公の顕彰会、それから、佐々木道誉公の顕彰会、そして最後に、尼子氏の顕彰会と4つあるんですけど、これらに補助を出して、事業を行う。あと、中学校にこういう歴史的な、やっぱり町から出てもらっているこういうような郷土の先人の方の紹介をしたいという思いがあり、社会科の授業の中で、今までは藤堂高虎にかかる内容はやっていたんですけども、うちの教育委員会の職員で、歴史に知見がある職員がいるので、彼に1時間版で授業をしてもらったんですけども、今度は、この3人の、藤堂高虎、甲良豊後守、佐々木道誉、これを学年別に1時間ずつやってもらおうかなと。3か年で3人の専門の方の話が聞けるとなりますので、今、教材の作成を依頼しており、でき次第、3学年それぞれで、それぞれの方の話を、中学校の子どもたちにしていこうかなと思っています。

それから、あと、図書館についてはさっき言いましたように、学校図書館があるんですが、町立図書館では、絵本を通した親子のコミュニケーション促進事業ということでやっています。4か月の健診のときに、ブックスタートということで、絵本をプレゼントして、2歳6か月の健診のときに、ブックスタートフォローということで、3歳児の絵本プレゼントということで、図書館が絵本を渡したり、また、いろんな活用方法を保護者に助言したりということで、図書館の活用推進も含めてアピールをしています。あらゆる機会を捉えて甲良町の保護者さんも含めた、子どもたちに本の楽しさを知らせたいなという思いでやっています。ちょっと長くなりましたが、私のほうからは以上です。

【中村総務課長】

ありがとうございます。今ほど教育長のほうから改正のポイント等を説明いただきましたが、議員さんの皆さんから御意見等ございましたら、よろしく願いいたします。

【青山教育長】

また、後の本会議でもご意見ください。

【中村総務課長】

そうですね。またそのときによろしく願いをします。

では、時間の都合上、次に進めさせていただきたいと思います。続きまして、次第の3番、甲良町のまちづくりについて、町長のほうから御説明させていただきます。よろしくお祈りします。

【寺本町長】

甲良町のまちづくりについてということで、お話しさせていただきます。

本日は私が就任して初めての総合教育会議ということになりますので、今後重点的に取り組んでいくことをお話しし、これに関した人材育成、教育について意見交換していきたいと考えています。お手元には資料として、就任時の公約を示した資料を配付しておりますので、御覧ください。

まず1点目、災害に強いまちづくりでございますが、資料では防災センター等のハード面を主に記載していますが、どれだけ施設面を整えても、皆が事前の備えも含めて、非常時に適切な行動を取らなければ、被害は甚大になる一方です。今年1月の能登半島地震で甚大な被害が発生し、まだまだ復興への道のりは長い状況であると聞いています。学校現場では、社会科や理科など教科のほか、訓練を実施するなど、これまでから防災教育に取り組んでいただいているところですが、改めてハード面と人材育成の両輪でしっかりと取り組んでいただきたいと考えています。

次に、2点目の人口減少です。少子高齢化対策です。町内から若者世代が流出を食い止めるために、近隣市町からも呼び込むための施策として、尼子周辺の宅地開発を提案しているところであります。当然ながら、これらの世代が住み続けていく魅力的なまちづくりが必要であり、子どもを産み育てたい町には充実した子育て環境、教育環境が不可欠であります。給食費の無償化や、県に先駆けての18歳までのマル福対応といった金銭的な支援のほか、きめ細かな訪問支援など、他の市町村に誇れる事業をかねてから行ってきています。一方で、学力についての課題は議会でも度々御議論いただいています。御意見いただきながら、特色のある事業をしているところですが、引き続き子育て環境、学びの環境向上をしっかりと行い、子どもを育み育てるなら甲良町と言われるまちづくりを進めていきたいと思っております。

次に、3点目の農業、建設業への支援ですが、今般の建築資材の高騰や、飼料・肥料の高騰など、取り巻く環境は非常に厳しいと言わざるを得ません。このような直近の課題のほか、後継者の育成や事業承継についても、かねてからの課題であります。資料に書いていますが、甲良町ではこれら基幹産業ですので、これらの中心的な役割を担っていく子どもの世代にも、これらの業種が町の発展に果たしてきた役割などをしっかりと知っていただくことができれば、魅力の再発見の一助にもなるかと考えています。教育委員会ほか、商工会、JA東びわこなど、関係する皆さんの知恵を出し合い、方策を検討していきたいと考えております。

最後の4つ目がDXの推進です。教育の観点からでも、国ではGIGAスクール構想が掲げられるなど、グローバルの状況を踏まえると、避けては通れない課題です。この問題については、うちの町としてもランニングコストでちょっと頭を悩ませているんですけど、これに加えて、当町は全域が過疎指定されている町であり、この4月24日に人口戦略会議が公表された報告書でも、消滅する可能性がある自治体とされています。都心部に比べると、短期的には学習塾やその他の学びの機会が脆弱になっていくことは、残念ながら避けがたいところであると思いますが、DXはこれを克服する切り札になると考えています。学齢期からデジタル技術の活用を理解することで、自分に必要な学習を理解し、それを実現する方策を行うことが可能になり、都市部と同様の学習環境ができるのではないかとということです。一方では、低学年からスマホを所持することによる弊害などが、昔から課題が指摘されている部分もありますが、併せてインターネットをはじめとしたDXの適切な使い方をしっかり理解するとともに、人に優しいデジタル化の1つではないかと考えています。

以上、公約に沿って私の思いを述べたところですが、改めて人材育成、教育の重要性を痛感いたしました。将来あるべきまちづくりに向け、町長部局と教育委員会部局が一層の連携を行っていくことをお願いしまして、私からの報告とさせていただきます。

【中村総務課長】

ありがとうございます。今ほど町長が、この町長の公約について思いを述べられたところでございますが、何かここだけは聞いておきたいというようなところがございましたらお願いします。

【寺本町長】

忌憚のない意見をおっしゃっていただいたら参考にしたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

【中村総務課長】

また、町長はいつも町長室をオープンにされておられますので、また機会がありましたら、総務課を通じていただき、町長との懇談もできることにいつもしておりますので、またよろしくお話をしたいと思っております。

また、御議論を深めていただきたいところではあったんですが、時間の都合上、ここで終了させていただいて、改めて、何かありましたら町長、直接、また総務課のほうに御連絡いただきましたら、私もまた対応させていただきますので、よろしくお話をいたします。

それでは、次第の4、その他に移りたいと思っておりますが、委員の皆様から何かございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。ないようでしたら閉会に当たりまして、今回の総括ということで、教育長より最後、御挨拶いただいて終了としたいと思います。教育長、よろしくをお願いします。

【青山教育長】

教育総合会議のほう、ありがとうございます。一方的な話ばかりで、私と町長の話ばかりで、聞いてもらうばかりなので、まだ議論できないんですけども、何回か

今後も、顔を合わせて話す機会もあると思いますので、忌憚のない話で、甲良町の教育、またまちづくりについての意見等をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。すいません。

【中村総務課長】

本日は以上をもちまして、総合教育会議を閉じさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。また今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。